

サステナブル カンパニーを 目指して

4

平和精機工業

平和精機工業(埼玉県八潮市、山口宏一社長)は、主に放送局などで使うビデオカメラ用の三脚を製造・販売する。米国、台湾、シンガポールに拠点を置き、国内外で自社ブランド「Libec(リーベック)」を展開する。中小企業ながら売上高の7割を海外で稼ぐ山口社長は「もともと自由で、新しいものを作りたい」と熱く話す。

ビデオカメラ用三脚を製販



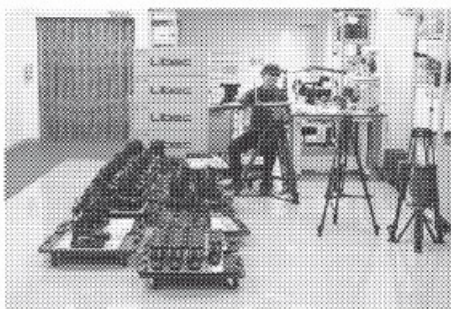
山口社長

カメラ用三脚はニッチな分野だが、カメラ用に比べて「動きの滑らかさ、正確性が大事」(山口社長)。ミスが

創業者の山口氏が許されない放送局向け1951年に東京都豊島区で写真用三脚の製造販売を開始。OEM(相手先ブランド)生産や積極的な海外進出で業容を拡大し、55年には平和精機工業を設立した。70年代には「HEIWA」ブランドで成功したが、台湾メーカーとの競合や円高で事業環境が悪化。87年にビデオカメラ用の機材メーカーに転換した。

「HEIWA」ブランドで成功したが、台湾メーカーとの競合や円高で事業環境が悪化。87年にビデオカメラ用の機材メーカーに転換した。放送局向けのビデオカメラ用三脚はニッチな分野だが、カメラ用に比べて「動きの滑らかさ、正確性が大事」(山口社長)。ミスが許されない放送局向けでもあり、厳しい品質要求に応えるのが同社のモノづくりの力だ。同社製品は一つひとつ手で組むのが基本だが、「この加工と組み立ての技術が当社の強み」(同)。使用する部品はサプライヤーが標準的な公差で加工するが、必要に応じて部品を組み直して高い精度・品質を出す。現場の従業員を多能工化してセル型生産の体制を

高精度・品質が強み



高品質な製品が国内外のユーザーに支持されている(新本社工場の作業場)

幅広い製品ラインアップ

敷き、パートタイムでも製品を作れるという。特徴。世界最軽量の三脚や世界でも同社しか製造していない「ミニ」

「製品が多いの成長しており、「小口ではなく、必要な製品」を提供した結果」と話

が中小企業の本領」と

快進撃が続きそうだ。(中野徹二) (随時掲載)

【業務第五部・小舟雄大部長代】「ユーザーの「こういう機能が欲しかった」を商品に落とし込み、国内外を問わずファンを獲得。山口社長の現場・対面でニーズをくみ取る営業スタイルが奏功し、顧客のさまざまな利用シーンに適した商品開発が進んでいる。今後も市場を捉えた企画開発力を武器に、さらなる事業拡大を期待している。